

ま な び や 目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.55 2020年6月24日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: covenant-seminary@nifty.com

主の聖名を讃美いたします。

前回2月のレターから四ヶ月。世界全体がコロナ禍に翻弄され、あまりにも多くの変化を余儀なくされて、別の惑星、別の時代に移住したかのような錯覚に陥ります。朝晩の開門閉門は変わらずとも、誰も登校しない閑散としたキャンパスは寂しい限り。朝晩の廊下挨拶も、「これは買いです！」の新刊紹介決めぜりふも、しばらくは封印したままです。でも季節は巡り、いつものように梅雨を迎えて、正門前の庭には何事もなかったかのように、アジサイやアガパンサスが満開。アガパンサスは、ギリシア語アガペー（agapē、愛）＋アンソス（anthos、花）が語源だそうですよ。

「栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも装っていませんでした」（マタイ6：29）。

校長 関野祐二

● Zoomズームずーむ

企業宣伝の意図は毛頭ないのですが、今や英国女王まで使いこなすほどテレビ会議システムの標準と化したZoom。今回の降って湧いたような神学校授業オンライン化で、最初に採用を決めたのはこのアプリでした。インターネットに接続されたパソコンやタブレット端末、スマホさえあれば、会議のホスト役から送られて来た招待メールのリンクをクリックするだけで、顔を見ながら何十人もの人と双方向の会話が可能。ホワイトボードや画面共有、グループセッションもお手のものです。卒業式の頃から怖々と会議で使い始め、新型コロナ状況が急速に悪化して、4月27日よりすべての授業をZoomオンラインで行うべく最終決断したのは14日の臨時教師会（もちろんZoom）でした。IT格差を超えて皆が使いこなせるのか（筆者はかなり下位）、語学授業や演習の多い科目はどうするか、よくわからぬままとにかく船出。言い知れぬ苦勞はありましたが、どうか約二ヶ月全科目を続けて来られたのは、在校生の皆さん&各教師の理解と協力の賜物です。ふと気がつく、礼拝・授業・教団内外の会議・面談すべてがZoomで、一週間のうちに何回も（先日夜の寮長会で「今日はこれでZoom4回目です」との強者あり）。目はしょぼしょぼ、お尻も痛くなり、これでいいのかなと思いつつも、便利さには勝てません。相手に映るわが書斎の背景が雑然としているので、今度はバーチャルで南半球の星空でも出そうかな。

● ポジティブ・シンキング

横文字の好きな首長の向こうを張るつもりはないのですが、慣れていない・やったことのない・ハードルが高く見えることに着手せざるを得ない時、このことばを意識して思い出すよう心がけています。積極思考、プラス思考とでも訳せましょか。元々は、人気ドラマ「〇〇できない男」の脇役女優が連発するフレーズの受け売りですが（家族には偏屈な主演に似ていると言われ複雑な心境）、新しいことが苦手な自分にはピッタリ。シカゴから雪道をバックに自撮りメールを送ったのもこの勢いです。思えば、まず「怪しい」と疑ってかかる習慣が抜けず、ずいぶん損な人生を送ってきたような（末娘は手をつけてから「やっていい？」と許可を求める真逆タイプ）。しかし今この状

況下、もはや「Zoomは怪しい」などと言ってはいられなくなったのでした。そうそう、ポジティブ・シンキングの小さな実践で、朝のラジオ体操を始めました。授業前後の廊下あいさつが途絶え、チャペルタイムもなくなって、下手をすると一日百歩も歩かない生活が続いたからですが、朝の寝不足不機嫌オーラ全開が改善され、家族平和にも貢献しているようですよ。コロナ禍でオンライン化を余儀なくされたことも、プラス思考で考えれば時間と会議費用の節約になっているし、神学校教育の新たな将来像が開けてきたとも言えますね（実は昨年度から、遠隔地の方も学べるオンライン授業の可能性を模索していたところ）。杵を取り払う（網戸はダメよ）、ハードルを越える、とにかくやってみる、さて、次は何に挑戦しようかな。

● 網戸職人現る

破れかぶれの神学校ではシャレにもなりません、毎年この季節になると頭を痛めるのは網戸の補修。ひらひら風にそよぐ網戸、そよぐ網もない杵だけの網戸、台風で杵ごとはずれた網戸、いろいろです。風が吹けば桶屋が儲かる、ならまだしも、風が吹けば網戸が落ちる（セイケイ 七不思議）、では笑っていただけません（翌朝拾い集めた杵数知れず）。年代物校舎の網戸は特殊サイズで窓ごとにサイズが微妙に異なり、外し方も難しく、そもそも網を張るにはコツが要るので、前職人卒業後は放置（見て見ぬふり）をしていました。しかし、求めよさらば与えられん、家族寮に「神学校〇〇工務店」店長が出現し、男子寮に技術主任も興されて、今夏の一大プロジェクトが始動。あれよあれよという間にほぼすべての網戸張り替えが出来たのでした。蚊が入るので窓は開けない、昨年までのセイケイ常識がついに覆され、中目黒初夏の風を満喫しています。

● 対面授業はいつから

先日、在校生と教師を対象に一斉アンケートを行いました。約二ヶ月続けてきたオンライン授業の評価と課題、今後の希望をオンラインで（！）集計したのですが、オンライン授業に大いに満足と概ね満足を合わせた割合が回答者の約93%。双方の努力賞プラス、都心にある通学主体の神学校では不可避とも言える通学時間も感染リスクもない点が高評価を生んだようです。いつもは年二回の教師会を今は毎月Zoomで行い、クラスの状況を把握しながら今後のことを相談しているのですが、同じアンケートで7月以降の授業形態を尋ねたところ、オンライン継続もしくは対面とのハイブリッド希望が大多数。教師会と理事会で話し合った結果、夏休み前7月28日まではオンラインのみで継続し、感染状況を見ながら夏休み明け8月20日（木）から部分的に対面を再開するべく、夏休み中に神学校側が準備を進めることに（教師はフェースシールド？）。前期最後の一ヶ月はどうしても試験や発表、演習のため、登校が必要な授業もありますからね。気持ちは駆け寄りたくても、ソーシャルなんとか（また横文字だ）を保たねばならず、遠くからマスク越しの笑顔で我慢我慢。ほこりだらけの校舎内清掃に追われる夏休みとなりそうです。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 在校生75名のオンライン授業が支えられ、感染から守られるように。特にオンラインで始まった新生14名（正規生8、編入1、聴講生5）の学びが支えられるように。
- ・ 夏休み明けの前期残りの期間、部分的な対面授業を再開できるように。適切な判断のため。
- ・ 神学校運営が、多くの方々の祈りと支援により、安定的に守られ推進されるように。